

平成25年

火災・救急活動の概要

高槻市消防本部

1 火 災

(1) 火災件数と出火率

☆ 火災は9件の減少

平成25年中に高槻市内で発生した火災は111件で、前年の120件と比べ9件の減少となった。

出火率（人口1万人当たりの出火件数）は3.1で、全国平均（平成24年中）3.5と比べ0.4ポイント低い。

(2) 火災種別

☆ その他の火災が約半数を占める

平成25年中の火災件数のうちその他の火災が53件で、全火災の半数近くを占めている。建物火災は49件で、そのうち住宅関係の火災が32件であった。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

建物火災 49件（44.1%）

林野火災 2件（1.8%）

車両火災 7件（6.3%）

その他の火災 53件（47.8%）

(3) 焼損面積

☆ 焼損面積は大幅に減少

建物火災は49件で前年の43件を上回ったが、焼損床面積は342平方メートルで、前年の1,460平方メートルに比べ1,118平方メートルの減少となった。

焼損表面積は38平方メートルで、前年の44平方メートルに比べ6平方メートル減少している。

(4) 損害額

☆ 損害額も大幅に減少

平成25年中の損害額は5,746万円で、前年の1億9,269万5千円から比較すると1億3,523万5千円の減少となった。

1件当たりの損害額は51万8千円で、前年の160万6千円より108万8千円の減少である。

(5) 火災による死傷者

☆ 死者はなし、負傷者は減少。

平成25年中の火災による死者はなく（前年2人）、負傷者は11人（前年20人）で、前年より9人の減少となった。

また、負傷者11人のうち、重症者はなく（前年1人）、中等症者が2人（前年1人）、軽症者が9人（前年18人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

☆ 24年連続した「放火（疑いを含む）」から「たばこ」が1位に

ア 平成25年中の全火災（111件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

たばこ 28件（25.3%）

放火（疑い20件を含む） 27件（24.3%）

こんろ 10件（9.0%）

たき火 7件（6.3%）

配線器具 5件（4.5%）

電灯・電話等の配線	3件 (2. 7%)
電気機器	2件 (1. 8%)
風呂かまど	2件 (1. 8%)
灯火	2件 (1. 8%)
排気管	2件 (1. 8%)
マッチ・ライター	1件 (0. 9%)
衝突の火花	1件 (0. 9%)
火あそび	1件 (0. 9%)
火入れ	1件 (0. 9%)
その他	17件 (15. 3%)
不明・調査中	2件 (1. 8%)

イ 建物火災（49件）を原因別にみると以下のとおりである。

※件数割合の%は小数第2位を四捨五入

こんろ	10件 (20. 4%)
たばこ	8件 (16. 3%)
放火（疑い2件を含む）	6件 (12. 3%)
配線器具	5件 (10. 2%)
電灯・電話等の配線	3件 (6. 1%)
灯火	2件 (4. 1%)
風呂かまど	2件 (4. 1%)
電気機器	1件 (2. 0%)
たき火	1件 (2. 0%)
その他	9件 (18. 4%)
不明・調査中	2件 (4. 1%)

(7) まとめ

☆ 従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

平成25年中の火災は、111件で前年の120件に比べ9件減少している。

火災種別でみると建物火災が49件で前年より6件増加したが、焼損床面積や損害額は前年より減少している。

火災による死者はなく、負傷者は11人で前年より9人減少している。

出火原因は、「たばこ」が1位で28件、「放火（疑いを含む）」が27件、「こんろ」が10件と続いている。

特筆すべきは、過去24年連続1位を占めていた「放火（疑いを含む）」が減少し、「たばこ」が1位となっている点である。

放火（疑いを含む）は、前年の45件から18件減少し27件となっている。このことは、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んできた、「放火されにくい地域環境作り」が実を結んだ結果と考えられるが、今後も放火撲滅に向け積極的な対策を継続していく必要がある。

たばこについては、前年の18件から28件と10件の増加であることから、引き続きポイ捨て禁止等の予防広報を重点的に実施していかなければならない。

火災概要（対前年比）

区 分	単位	平成25年 (A)	平成24年 (B)	増減 (C) (A)-(B)	増減率 (%) (C) / (B) × 100	
出火件数		111	120	△9	△7.5	
建物火災		49	43	6	14	
林野火災	件	2	5	△3	△60	
車両火災		7	10	△3	△30	
その他の火災		53	62	△9	△14.5	
焼損棟数		52	49	3	6.1	
全 焼		3	3	0	0	
半 焼	棟	1	0	1	0	
部分焼		11	8	3	37.5	
ぼ や		37	38	△1	△2.6	
焼損面積	建 床面積	m ²	342	1,460	△1,118	△76.6
	物 表面積	m ²	38	44	△6	△13.6
	林 野	a	2	10	△8	△80
死者	人	0	2	△2	△100	
負傷者	人	11	20	△9	△45	
り災世帯		35	43	△8	△18.6	
全 損	世帯	5	14	△9	△64.3	
半 損		2	3	△1	△33.3	
小 損		28	26	2	7.7	
り災人員	人	74	93	△19	△20.4	
損害額		57,460	192,695	△135,235	△70.2	
建物		54,100	173,087	△118,987	△68.7	
林野	千円	6	0	6	0	
車両		3,010	15,113	△12,103	△80.1	
その他		344	4,495	△4,151	△92.3	
出火率	件	3.1	3.4	△0.3	△8.8	
年	平成25年		平成24年			
主な火災原因	1	たばこ	28件	1	放火（疑いを含む）	45件
	2	放火（疑いを含む）	27件	2	たばこ	18件
	3	こんろ	10件	3	火あそび	9件
	4	たき火	7件	4	こんろ	8件
	5	配線器具	5件	5	たき火	4件

過去5年間の火災状況

区分		年別	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
火災件数			103	101	89	120	111
内 訳	建 物		53	50	50	43	49
	林 野		3	3	3	5	2
	車 両		7	10	12	10	7
	その他		40	38	24	62	53
	爆発（再掲）						
焼損棟数（棟）			65	77	70	49	52
内 訳	全 焼		4	9	9	3	3
	半 焼		1	2	3	0	1
	部分焼		17	14	17	8	11
	ぼ や		43	52	41	38	37
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	581	1,407	1,144	1,460	342
		表面積（㎡）	148	197	281	44	38
	林 野（a）	31	2	13	10	2	
り災世帯（世帯）			54	78	51	43	35
内 訳	全 損		8	13	8	14	5
	半 損		5	13	8	3	2
	小 損		41	52	35	26	28
り災人員（人）			124	196	128	93	74
損 害 額（千円）			70,355	222,002	96,038	192,695	57,460
内 訳	建 物		59,963	217,382	90,506	173,087	54,100
	林 野		0	0	0	0	6
	車 両		9,132	2,060	5,087	15,113	3,010
	その他		1,260	2,560	445	4,495	344
死 者	48時間（人）		0	6	2	2	0
	30日（人）		0	0	0	0	0
負 傷 者（人）			21	25	20	20	11
覚 知 別 件 数			103	101	89	120	111
内 訳	火災報知専用電話（119）		57	56	58	67	69
	加 入 電 話		3	1	3	2	2
	警 察 電 話		10	2	3	11	4
	事 後 聞 知		33	38	23	36	32
	そ の 他		0	4	2	4	4

2 救 急

(1) 救急出場件数

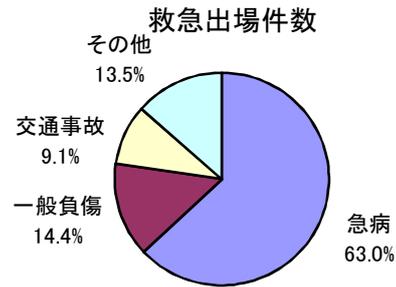
◎ 出場件数は増加

平成25年中の救急出場件数は18,598件で前年18,149件に比べ449件(2.5%)増加した。

また、1日平均にすると約51件、約28分に1回の割合で出場したことになる。

出場件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で11,718件(63.0%)、第2位が一般負傷2,669件(14.4%)、第3位が交通事故1,698件(9.1%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出場件数は464件であった。



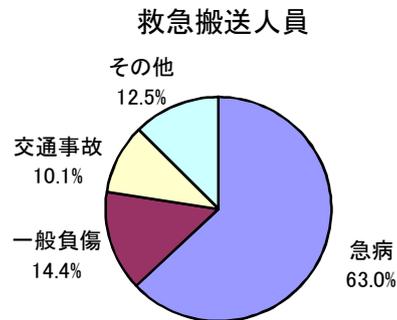
(2) 救急搬送人員

◎ 搬送人員は増加

平成25年中の搬送人員は16,769人で、前年16,374人に比べ395人(2.4%)増加した。

また、1日平均約46人、市民の約21人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

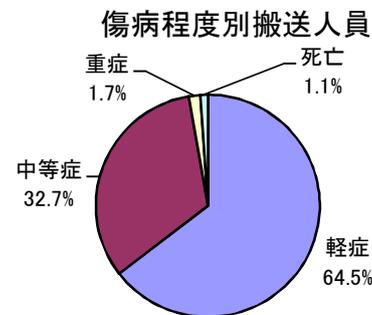
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で10,564人(63.0%)、第2位が一般負傷2,422人(14.4%)、第3位が交通事故1,691人(10.1%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎ 軽症患者は10,818人

平成25年中の搬送人員16,769人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が10,818人(64.5%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が重症又は軽症以外のもの)が5,490人(32.7%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が278人(1.7%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が183人(1.1%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

◎ 応急手当普及啓発と救急車の正しい使い方をPR

平成25年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、出場件数・搬送人員ともに増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症患者が多く、全搬送人員の64.5%を占めており、全国平均の50.4%(平成24年中)に比べ高い割合を示している。

このことから日常的に、更には「救急の日」等の諸行事、救命講習会・各広報媒体を通じて、応急手当普及啓発と救急車の正しい利用について、市民の方に周知徹底を図る必要がある。

救急概要（対前年比）

区分 事故種別		出場件数（件）			搬送人員（人）		
		25年	24年	増減	25年	24年	増減
合計		18,598	18,149	449	16,769	16,374	395
火災		52	64	△ 12	9	19	△ 10
自然災害		1	1	0	0	0	0
水難		6	12	△ 6	0	1	△ 1
交通		1,698	1,668	30	1,691	1,660	31
労働災害		146	109	37	141	105	36
運動競技		103	115	△ 12	107	119	△ 12
一般負傷		2,669	2,721	△ 52	2,422	2,472	△ 50
加害		117	108	9	102	89	13
自損行為		228	207	21	150	130	20
急病		11,718	11,488	230	10,564	10,345	219
その他	転院搬送	1,588	1,438	150	1,580	1,429	151
	医師搬送	0	0	0	0	0	0
	資器材搬送	0	0	0	0	0	0
	その他	272	218	54	3	5	△ 2

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等に よる事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	4	32	7	1	2	86	1	105	238
活動件数(件)	4	17	4	0	2	70	1	36	134
救助人員(人)	1	18	1	0	8	69	0	17	114

4 その他

(1) 警戒・支援出場等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出場	27件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出場	46件	火災出場したが結果誤虚報であったもの
支援出場	458件	救急等の支援活動
その他出場	319件	上記以外(怪煙調査・エンジンオイル漏洩等)
合計	850件	

(2) 応援出場

応援先	件数	応援出場の内容
茨木市	1件	救助出場(交通事故)
島本町	32件	救急出場(特別救急隊出場18件)・火災出場(名神高速道路)
枚方市	1件	火災出場(淀川左岸河川敷)
京都市	4件	救急出場
合計	38件	

(3) その他の災害出場

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出場	2件	台風18号及び6月15日の集中豪雨

※ 表中の△印は減少もしくは負数を表す